

試験区分		出願期間	入学試験日	試験会場	合格発表日	入学手続締切日
推薦入学試験		2015年10/26(月)~11/4(水) 必着	2015年11/14(土)	本学	2015年11/19(木)	2015年12/2(水)
一般入学試験 <small>●健康栄養学科は前期のみ</small>	前期日程	2016年1/4(月)~1/20(水) 必着	2016年1/31(日)	●本学 ●秋田会場 ●盛岡会場 ●郡山会場	2016年2/5(金)	2016年2/12(金)
	後期日程	2016年2/5(金)~2/19(金) 必着	2016年2/27(土)		本学	2016年3/4(金)
大学入試センター試験利用入学試験 <small>●人間心理学科・健康栄養学科はA・B日程のみ ●子ども学科はA・C日程のみ</small>	A日程	2016年1/4(月)~1/29(金) 必着	平成28年度大学入試センター試験に受験し、1/16(土)、17(日)に実施される大学入試センター試験を受験してください。	本学	2016年2/16(火)	2016年2/23(火)
	B日程	2016年2/5(金)~2/29(月) 必着			2016年3/4(金)	2016年3/10(木)
	C日程	2016年3/4(金)~3/10(木) 必着			2016年3/15(火)	2016年3/22(火)
AO入学試験 <small>※</small>	Ⅲ期	2015年12/24(木)~2016年1/4(月) 必着	AO登録者(合格候補者)を決定します。	本学	2016年1/6(水)	2016年1/14(木)

※AO入試Ⅲ期[表現文化学科・現代社会学科・環境構想学科で実施] エントリー期間:11/9(月)~11/25(水) 必着 ※特別選抜入試、編入学試験については別途お問合せください。

尚綱学院大学入試広報課 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号
tel 022-381-3311(直通) fax 022-381-3325
http://www.shokei.jp [e-mail] koho@shokei.jp

今後の防災を考える上で重要な施設が津波避難タワーです。今年2月に完成した仙台市初のタワーはおよそ300人が避難できるように



中野五丁目津波避難タワーで記念撮影

有事に備えた対策

最初に訪れたのはキンピール仙台工場。震災時の対応やその後の復興支援、防災体制の強化、環境負荷低減の工夫が紹介され、学生は地域の防災と活性化、そして環境問題に企業が深く関わっていることを学び、視野が広がりました。みちさきでは6次産業化に取り組み農作物の養液栽培施設を見学。高校生たちは熱心に話を聞き、津波による塩害を受けた被災地での新しい農業の可能性について学びました。

地元企業の復興支援

1日目

復興まちづくりと自然との共生を考える

尚綱学院大学総合人間科学部 環境構想学科

河北新報社「今できることプロジェクト」

連携企画



第2回

高校生のためのエコツアー

実施/2015年8月10日・11日

ツアーレポート

「環境」は未来を考えていく上で重要なキーワードのひとつです。

未来を担う高校生が「自然と人とまち」のつながりを知り、環境について考えるツアーを実施しました。

(主催:環境構想学科)

ツアー詳細は大学HPからもご覧いただけます。

<http://www.shokei.jp>

協力

キンピール仙台工場/南蒲生町内会復興部
仙台市建設局 百年の杜推進課/NPO法人都市デザインワークス
花と緑の3.11プロジェクト/みちさき
仙台市危機管理室防災計画課 避難施設整備室
NPO法人川崎町の資源をいかに

なっており、備蓄品も充実。大学生からは「施設・備蓄品を適切に使用するためには定期的な訓練が必要」という感想がありました。

連携による復興

江戸時代から「居久根」と呼ばれる伝統的な屋敷林があった南蒲生地区。まち歩きをしながら震災前後の写真を見比べ、津波被害を知りました。集会所では「新しい居久根のかたち」を模索し、豊かな緑がある景観を取り戻すために、地域住民・行政・NPOが一体となつて取り組んでいる復興まちづくりの説明を受けました。

2日目

自然と生きる知恵

訪れたのは川崎町。ここでは実際に山に入り、樹木の再生能力を生かした「皆伐萌芽更新」によって森林が守られていることを学びました。「木を切るとは良くないことだ」と思っていたけれど、実際には「違った」と、数年前に伐採された切り株から萌芽し、生長した若木を見た高校生は驚いた様子。切った木の活用方法も学びました。



住民による手作りの水車に感嘆

2日間で得たこと、課題として感じたことを高校生と大学生が共に意見を出し合い、振り返りました。まちづくりも自然との共生も、様々な立場の人が力を合わせ、取り組んでいることを知ることができました。



グループワークで振り返り学習

参加者の声

高校生

初めて知った地域を守る企業の姿



会津若松ザバリア学園高校3年 吉野 碧さん

ツアーで驚いた点は、企業が地域住民に寄り添い、住民を主体とする地域活性化に向けた活動を行っていたことです。また、地域が行政と手を取り合い、一体となつてまちづくりを行っている姿も知ることができ、復興や環境について考えを深めることができました。

楽しみながら活動する人たちに感動



塩釜高校3年 渡邊 直人さん

森と人が共存するために資源を大切に、水車発電のように再生可能エネルギーの開発にも力を入れ、自分たちの仕事に誇りを持ち楽しみなことから活動していた川崎町の方々が印象的でした。これからは身近な企業や地域の活動にも関心を持っていきたいと思えます。

大学生

高校生たちと共に学んだ2日間



尚綱学院大学2年 小坂 舞さん

今回のツアーは、現在の宮城県の復興状況や、環境に対する活動について知る良い機会となりました。ディスカッションでは初めてファシリテーターを務めました。思った以上に難しく、人の意見をしっかりと聞き、取り入れることの大切さを学びました。